

「海の悠遊友」創造実行委員会の報告書

活動は以下の3つに大別しました。

海浜のボランティア清掃

毎月、随時の快晴に日曜日早朝に実施：ゴミと流木の回収活動。

文化講演（シンポジウム）別紙添付

2007年6月24日 氷見市 氷見市海浜植物園

「海との共生シンポジウム&海の音コンサート」

2007年7月28日 射水市 海王丸パーク内

「エコプランの実践」シンポジウム

共催・後援事業

2007年11月1日「海辺の結婚式」若者の手作り結婚式

2007年11月3日 南砺市 五箇山青少年の里(羽場家) 「豊かな自然の中で産学官のエコロジーク考察」

2007年11月4日「海辺のConcert」を「森のファンタジー」で再現し、海の環境の考察と「海・里・山の共生」を提唱

2008年3月2日「海・里・山を結ぶ若者シンポジウム」で、地域活性化は「故郷愛する心が必要で海の環境を守る姿勢に同じであることを確認できた。

詳細内容 その1

海浜のボランティア清掃

金川尚子：委員長の声かけに集まる主婦ボランティアの輪の年代は、やはり高齢者が多いですね。これも人生の教訓と思い、地道な活動を継続したいと思います。……いつかは自発的な若い主婦層の拡大をねらっています。

氷見の植物園近くの浜辺（氷見市松田江浜あたり）に、毎月、随時の快晴の日曜日6：00に集合し 身体の健康のために、準備ラジオ体として、太極拳（講師はたいへん若々しい71歳の東海久枝講師さん）を短い時間、楽しみます（北日本記事写真あり）「身も心も海岸も美しく」をスローガンに、海岸の清掃をしています。現在は、さらに大きな清掃ボランティア活動の輪になると、「レインボーの会」を結成するまでになりました。とにかく、……もくもく……汗を流す活動です。



清掃用具（ ステンレスU字型はさみ、手袋、ゴミ取りトング、ゴミ袋など）も、助成金で購入できた事も、さらに清掃ボランティア仲間の意欲を高めることになりました。

きれいな環境の海で、美味しい深呼吸が、心身の活性に繋がり、人々の地域生活で交流をあたため、海との共生の大切さを学ぶ活動と認識を深めました。

詳細内容 その2

文化講演（シンポジウム）別紙添付

2007年6月24日 氷見市 氷見市海浜植物園

「海との共生シンポジウム&海の音コンサート」

13:30～開催場所：ガラス張りの海浜植物園4階ホールからは日本海が一望され、立山連峰までが望まれる絶景パノラマの中で・・・

FUJA「フルート・ギター・バンドネオン・バイオリン・ピアノ・こと」 Concert をオープニング鑑賞しました。 青い海を背景に視覚聴覚さらに心に届くセラピー音は

The precious moment of hopping with m.u.s.i.c,
that s when we all feel the message of pease.....
地球がいつも、青く 美しい、宇宙の星であるように

14:30～松原勝久コーディネーター

中井徳太郎氏の基調講演の骨子

「環日本海における自然環境と人間生活のかかわり、歴史が繰り返した

地域間の人間社会のかかわりで、繰り返されてきた循環・共生システムに学びながら、将来起こりうる、多様な問題を予測しなければなりません。具体的には・・・「循環」と「共生」と「海」の視点から、「環日本海の自然環境」、「環日本海地域の交流」、「環日本海の文化」、「環日本海の危機と共生」の分野の研究をすすめています。「日本海学」の「循環」と「共生」と「海」の視点から・・・現在私たちが直面している問題は、・・・人類の営みにより、資源の枯渇、地球の温暖化などの環境の破壊が深刻化し、人類の営みの「持続性」が危機に瀕していることです。

経済活動を含む人間社会の活動が、資源を浪費し地球環境を破壊するのではなく、地球環境に優しく、人類の持続性にプラスになるように修正されることが大切です。この持続性の鍵は・・・「循環」と「共生」という2つの視点です。「循環」には水循環のような自然環境システムの物質循環と、地球のリズムや周期を意味する時間的循環の2つの側面があります。そして「海」の視点は海が陸と陸を（国家と国家も）隔てるのではなく、むしろ海が陸をつなぐという意味です。日本海に面する国々の中の13億人の大国の中国の経済成長と人口爆発は10億人のインドにも波及する今日、日本経済は空洞化の危機が叫ばれ、その影響をまともに受けています。日本は自分たちの問題を解決するために、新たなパラダイムを生み出し、世界へ広める氏名があります。つまり、日本は「21世紀の地球の持続性を確保するための新しい経済モデル、環境技術にもとづいた「循環」「共生」型の経済モデルを国内に確立し、世界に輸出する姿勢が求められています。

少子高齢化で社会保障の支出が増加する一方でデフレ&グローバルイゼーションで税収が減る中、国家財政の対応力が極めて低いギャップこそがわが国の最大課題です。」

この講演について、パネラーから

清家彰敏氏・・・中国の現状の最新情報と巨大都市の課題

北野孝一氏・・・日本地域経済の役割と日本海地域環境保全

中村浩二氏・・・地球の生態学観測から見える温暖化から寒冷化

奥田宏一氏・・・地球環境問題にマスコミの取り組みと使命

の点から白熱したディスカッションがなされ時間が延長されました。

一般の方や大学生からの多岐にわたる質問もあいつぎ、大変楽しいシンポジウムを盛会に終了できました。

文化講演（シンポジウム）別紙添付

2007 年 7 月 28 日 日本海交流センター（海王丸パーク内）

「エコプランの実践」シンポジウム

13:00～開催場所：日本海交流センターは大きな帆船・海王丸の見える敷地にて大学生や高校生も参加した若者向けの講演会場に最適でした。

基調講演は

清家彰敏氏・・・「海の共生と未来ビジネス」

共存する日本海 6 カ国が資源の将来性を憂う中で、互いの国家の経済発展をいかに考えるか？各国の姿勢の相異を理解することが必要であり、21 世紀に必要な「共生」を学ぶ。

近藤典彦氏・・・21 世紀の車社会の公害を回避する環境対策：「自動車リサイクルの国際標準」

まだまだ使える部品の工夫アイデアが社会の知恵であり、廃棄利用もベンチャー産業であり地球環境の保護になる。

パネラーからも海の話

稲村修氏 「魚の不思議」・・・海底と生物

藤謙一氏 「ガイアの海」・・・地球は生命体であり日本海も生きている。

寺嶋圭吾氏 「食文化は海から」・・・食習慣の伝来

中山妙子氏 「音の文化は海を渡る」・・・民族文化の異なる風土から楽器が生まれた歴史

海王丸交流会館とこ海王丸の船室を視察できて係の職員の丁寧な案内に海での過去の船の活躍にまで解説あり、楽しいシンポジウムとなりました。

2007 年 11 月 3 日 南砺市 五箇山青少年の里（羽場家）

2007 年

「豊かな自然の中で産学官のエコロジー考察」

海・山・里の活動を発表

詳細内容 その3

共催・後援事業 2007年11月1日「海辺の結婚式」若者の手作り結婚式
 女子大学生が主体、地域ボランティア支援で氷見海浜植物園で本物のカップル
 公募の Bridal を海浜地域の交流に貢献
 神父さまもボランティア参加、バルーンアート式場装飾
 2007年11月3日 南砺市 五箇山青少年の里(羽場家)「豊かな
 自然の中で産学官のエコロジー考察」
 「海・里・山をむすぶ」活動の「芸術祭」の中で海と山の地域
 住民の広範囲な交流が実現し、豊かな自然環境を守ろうと
 いう意識の高揚に最適な討論ができました。
 2007年11月4日「海辺の Concert」を「森のファンタジー」で再現し、
 海の環境の考察と「海・里・山の共生」を提唱
 「海・里・山をむすぶ」活動の一環として、立山山麓の国際大
 学の山の環境で多様な活動報告

開会	金岡祐一理事長
基調講演「人と自然の関わり：海里山」	安田喜憲・中井徳太郎
「子ども達と森づくり」	谷口新一
「海の森づくり」	尾畑納子
「サモアでの活動」	才田春夫
「創造：森の夢」五箇山芸術祭～	永井由比・焰仁
国際交流スピーチ	大学生&高校生
「呉羽の里」	ファミリーパーク山本茂行園長
挨拶	北野孝一実行委員長

合掌の里の地域～立山山麓まで里山を視て

ここに集う人々がともに語りともに心をかよわせるひととき。

基調講演 安田喜憲 国際日本文化研究センター教授

NPO 法人ものづくり生命文明機構理事

お金の論理優先・弱肉強食の市場原理主義・経済至上主義の社会のあり方が、地域の疲弊、格差の拡大といった問題の根底にあるとの反省がじわりと広がりつつある。時代を超え自然と人、人と人が助け合う共同体の暮らしの原点を見直すのが21世紀である。

2008年3月2日「海・里・山を結ぶ若者シンポジウム」では、「まちづくり」は「故郷愛する心が必要で海の環境を守る姿勢に同じであることを確認できた。